

# わんぱく学園ニュース

平成23年4月/5月号 No. 152

庭先に咲き、春を告げる美しく白い花。小さな5つの花弁が丸く集まり、白い手毬のように咲く花……そう……こでまりの花が咲く頃——。

よりそい集まって咲くさまは、伸びゆく姿、門出の祝いを感じさせてもくれる。別名すずかけともいうとか……。

## “こでまりの 白さ哀しく 姿追う”

(この度の大きな震災で果たせなかった将来の夢、成人していくはずだった我が子の姿——)

白さゆえ、哀しみが深く夢であってほしいという人々の願いを込めて……)

～土江 和世～

今回、原稿をお願いしたのは、監査法人 双研社の貴志豊先生。

長年来、私の活動を支えてくださった筋ジストロフィーの権威。河原仁志先生の愉快的な仲間の一人です。さすが、河原先生ご推薦の方、本当にこころ温かく、聡明な方です。

公認会計士として多くの企業にハートあるサポートをなさっている大活躍の貴志先生、こんな素晴らしい方に東京でお会い出来たのは、本当に河原先生のお陰です。

私の歩む道にもう一つ灯りがともりました。

## 「仲間づくり」

公認会計士・税理士 監査法人 双研社 代表社員 貴志 豊

わんぱく学園のみなさん、はじめまして貴志豊(きし ゆたか)と申します。皆さんとお知り合いになれたことを心から嬉しく思っています。わんぱく学園は、野外活動、絵画、陶芸教室、音楽などを通じて多くの仲間が集まり、交わり、楽しむ場として 20 数年間続いており、その参加者が延べ5万5千人を超えたと聞いています。たいへん素晴らしいことです。

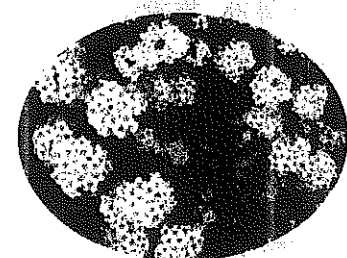
ちょっとした出会いが大きな絆になり、それが人生を大きく左右することがあります。皆さんとお知り合いになれば、このような形で自己紹介をさせて頂けることになったのも、ちょっとした出会いからです。東京浅草の雷門の近くに「福寿司」というご夫婦で営んでいるお寿司屋さんがあります。その店でたまたま知り合ったのが以前に島根に住んでおられた河原仁志医師(現「独立行政法人国立病院機構八戸病院」小児科医長)で、その河原先生から3月4日～8日に東京「にほんばし島根館」で「チャレンジドアート美術館」が開催されると連絡があり、皆さんの作品を見にいきました。そこで初めてお目にかかったのが皆さんの“ボチボチ母ちゃん”こと土江和世先生です。土江先生と河原先生とは師弟関係(ご本人たちは親分子分と言っています)であったこともあり土江先生と我々は意気投合し、一瞬のうちに仲間となったのがそもそもの皆さまとのご縁の始まりということになります。

その日に土江先生、常賀信寛プロデューサーと今回「サポートセンターどりーむ」の正会員になった貴志信子さん、ステップサイエンス㈱の郡司次郎社長と福寿司に行き兄弟の契りを交わしました。福寿司には、集まってくる客仲間で「福寿司ファミリー」という集団がいつの間にか出来上がっています。勝手に集まり言いたいことを言って帰るといふことで、皆さんの「わんぱく学園」の野外活動と同じです。人間力は仲間の力と相互作用することによってさらに大きくなると言われています。仲間どうしで話をしたりぶつかり合ったりすることで、それぞれの個性が何となく活性化してくるのかもしれない。そういう意味からも今回皆さんのわんぱく学園の仲間に入れて頂けたことはたいへん有意義なことでも有り難いことと思っています。

「ゆめのつばさ 1st」のCDアルバムに次の歌詞(「出会い」/てっちゃん工房)があります。

人と人が生きるのに  
出会いは欠かせぬものなのだ  
さあ、今日もありそうな気がするよ  
生きてる楽しさを見付けよう、見付けよう

人と人が生きるのに  
出会いは待ってちゃくれないよ  
さあ、あきらめないで、根気よく  
チャンスは自分で 探すもの、探すもの  
そうだ 探すんだ!



こでまり

お互いにさらなる仲間づくりが出来ればと思っています。わんぱく学園の皆さん、これからもよろしく願います。よき出会い、よき仲間づくりを!

今年の11月に開催される「チャレンジドアートエキスポ イン ジャパン 2011」を大成功させましょう。

～この子ありて～

NPO法人サポートセンターどりーむ 理事長 土江 和世

今、福祉の道をボチボチと歩みつつある私  
 それはいうまでもなく、第2子の長男”広”との出会いあつてのこと・・・  
 振り返れば 34年前の4月、難産の末、出産予定日より2週間遅くこの世に生を受けた”広”との  
 出会いが本当の意味で”生きる強さ”をこんなにも教えてくれようとは・・・。  
 「何か障がいがあるらしい」と家族が気付いたのは、生後数カ月たった頃のことでした。成長と共に  
 少しは回復するかも・・・と淡い期待もありましたが、祈るような思いで回った県内外の病院の先生  
 がたからの遠慮気味な所見から回復はむずかしいことが分かりました。その時の私にとってはと  
 っても辛い結果でした。勤めていた幼稚園で、転んだことでこうした結果になったことから、さいなま  
 れる毎日でした。でも、そのことによって逆にこれからの子育てのあり方も対策もはっきりしてきた  
 のです。  
 やがて、この子の就学時、養護学校に進むか、普通学校に進むかという問題にぶつかりまし  
 た。”この子にとって幸せな生活とは、当然ながら家族にとっても幸せな生活であるはず”と話し合  
 い、その当時まだ小中学校に創設されていなかった特殊学級を設立していただくための働きかけ  
 を必死に行いました。自分たちが住む地域に必要なものが無かったら、自分たちで作ればいい・・・  
 という考え方でした。  
 そうして、長男は学校や施設で出会ったたくさんのお友達、先生、指導員の方々に温かく支えら  
 れ、導かれ数々の出来ごとの中で、彼なりの心の育ちを見せてくれました。「学校、楽しいよ!!」  
 とたどたどしい言葉と身振りでその嬉しさを伝えてくれた彼・・・  
 そして9年の義務教育を終え、「さあーこんどはどこへ進んだらいいのかな・・・？」と。あちこちの  
 養護学校の高等部、施設などを親子して回り、担任の先生方と直に話し合い、彼の行く道を探した  
 のです。14か所を回って、決めたのが今お世話になっている松江にある社会福祉法人四ツ葉園  
 さんでした。  
 入所して早や、19年・・・この19年の間、時にはうまく表現が出来ず、また、正しい理解をいた  
 だけず、悲しく痛い目に会うこともありましたが、親として学んだことは ”この子なければ到底経験し  
 得ず” という深い思いでした。  
 私がこうして微力ながらも福祉の道で頑張っていけるのも、この広あつてのこととつくづく思うので  
 す。この間、障がいのある子どもたちが社会と交われる”わんぱく学園”を今は亡き夫と立ち上げ、  
 以来23年間、毎日曜日休まず続けてこれたのも それはただ一つのことば・・・  
 ”この子無ければ、到底経験し得ず”という誇りに満ちた感謝のことばからでした。  
 今、障がい者のアートを事業化して自立の支援をしようというアートプロジェクトを手掛けられるよ  
 うになったのも、ただ・・・  
 このことばありき・・・ そして、この子ありて・・・と思うかあちゃんでした。

■4月&5月の「わんぱく学園」のメニューは下記の通りです。

月 日	内 容
4月10日 (日)	□愛宕山でお花見&ゴミ拾い 集合場所：平田中学校玄関前 担当：常賀信寛 土江和世 準備物：おにぎり、水筒、ゴミを入れる袋
4月17日 (日)	□荒神谷の散歩&ゴミ拾い 集合場所：アトリエ「おちらと」 準備物：水筒、ゴミを入れる袋（指定のゴミ袋は園で準備） 担当：榎野良樹 山口恵子
4月24日 (日)	□竹ノ子掘りす～か！？ 集合場所：アトリエ「おちらと」 行き先：原周弘氏宅の山（野石谷町） 準備物：お弁当、水筒、敷物 お家にスコップ等がある人は持って来てね。 担当：常賀信寛 土江和世 参加費：200円
5月1日 8日 (日)	□お休みです。
5月15日 (日)	□コンニャクづくりをしよう。 “コンニャク芋って？ どんな芋かな” 場所：アトリエ「おちらと」 担当：福田絵 土江和世 材料費：200円
5月22日 (日)	□粘土コネコネ遊び “何つくって 遊ぼうかな～！？” 場所：アトリエ「おちらと」 担当：安食ひろ 土江和世 材料費：100円
5月29日 (日)	□春の海（塩津方面）で流木拾いしない？ 集合場所：アトリエ「おちらと」 担当：榎野良樹 山口恵子

◆集合時間・・・9時50分(指定時間が無い場合)

◆集合場所・・・指定場所へ直接

◆学園問合・・・NPO法人サポートセンターどりーむ

電話/FAX:0853-63-4001 携帯:090-7774-5913

Mail:sc-dream-kt@sky.plala.or.jp

文責:土江和世